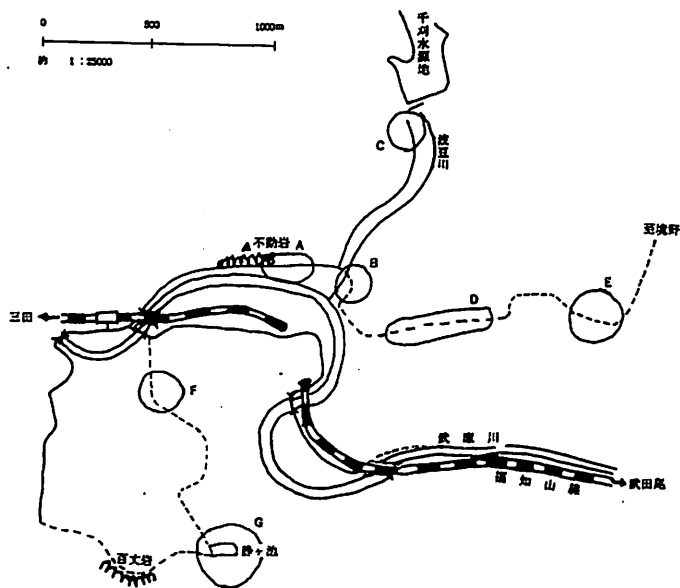


神戸市兵庫区道場付近のトンボ相

岩崎正道

筆者は、神戸市兵庫区道場と宝塚市との境界付近にある湿地を中心に1970年と1971年にわたりトンボ目の分布を調べたので報告します。この道場付近の調査地は、その中央を武庫川が流れており、裏六甲から北摂の山々への遷移帯ともいべき場所で、標高200m前後の丘陵が連なり、その谷あいにはサギソウやトキソウの咲く湿地が点在しています。植生はやや貧弱でアカマツやコナラ・クリなどの疎林がみられ、湿地にはハンノキなどが点在しています。湿地内を流れる川は、その水がやや酸性を帯びていて、そこにはオイカワ、イモリなどが棲息しています。湿地内では5月中旬からハッチョウトンボが沢山発生しはじめ、8月末ぐらいまでみられ、7月にはハネビロエゾトンボやオオエゾトンボが発生し、9月・10月にはヒメアカネが多くみられ、シーズンをとおしてトンボの生態が観察できます。当時、高校生であった筆者は、暇のある毎にこの地を訪れ、ハッチョウトンボの行動やハネビロエゾトンボの飛翔を楽しみました。



- A地点：不動岩の前にあった日当りのよい荒地。現在は水道局の建物ができている。
- B：湿地への小径の入口。道幅は2mぐらいで、道の両側にススキの類がはえており、左手にちょっとした岩場がある。
- C：千刈水源地の手前にある庭園。ここには人工的な池がある。
- D：湿地への小径。幅2mぐらいの地道で、ところどころに小湿地があり、小さな流れを2

・3度横切る。

E地点：土（凝灰岩を多く含む）のかけの下に発達したかなり大きな湿地

F：静ヶ池への小径。途中、樹林のために少々薄暗いところもある。

G：静ヶ池。ここにも小さな湿地がある。

次に、この調査地にて記録したトンボを記述します。

1. アオモンイトトンボ *Ischnura senegalensis*

E 12-X-1971

湿地内でみることのできる時期は限られているような気がする。

2. キイトトンボ *Ceriagrion melanirum*

E 19-VII-1971, 12-VIII-1971, 27-VIII-1971など

キイトトンボは、7・8月にはハッチョウトンボと共に湿地内でもっとも普通な種となる。

3. ホソミイトトンボ *Aciagrion hisopa*

D 12-VIII-1971 1♀

E地点へいく小径の途中にある小湿地にて1♀を記録したのみである。

4. ホソミオツネトンボ *Ceylonolestes gracilis peregrinus*

E 25-V-1971, 19-VII-1971

5月の下旬に、交尾している個体や産卵している個体が多くみられた。

5. グンバイトンボ *Platycnemis foliacea sasakii*

B 19-VI-1971 1♂

宝塚市境野周辺には多産すると聞いたが、ここでは単独♂がススキの葉上に静止しているのを1個体みかけただけである。

6. アオイトトンボ *Lestes sponsa*

E 27-K-1970 2♂♂

秋期に湿地内にて散見される。

7. オオアオイトトンボ *Lestes temporalis*

D 19-VII-1971

小径沿いの小さな水たまりにて、かなりの数の羽化個体をみた。

9. カワトンボ *Mnais strigata*

B-D-E 25-V-1971

明型のカワトンボが小径沿いの細流などで5月から8月までみられる。

9. ハグロトンボ *Calopteryx atrata*
 D 12-VII-1971, 12-X-1971, 27-X-1971
 小径沿いの細流にはみることができず、ある程度木立ちに囲まれた小川に棲息しているよう
 だ。
10. ムカシヤンマ *Tanypteryx pryeri*
 A-B 25-V-1971 1♂1♀
 不動岩の前の道路などで道路に翅を広げて静止するのがみられた。
11. タベサナエ *Trigomphus citimus tabei*
 C 25-V-1971 3 sp.
 水源池近くの人工的な池の周囲でみた。
12. フタスジサナエ *Trigomphus interrupts*
 C 25-V-1971
 タベサナエと同じ所でみられた。
13. ヤマサナエ *Gomphus melaenops*
 19-VII-1971 1♂
 道場駅近くの側溝や水源池より流れる川沿いにみられる。
14. コオニヤンマ *Sieboldius albardae*
 D 19-VI-1971 2 sp.
15. オジロサナエ *Stylogomphus suzukii*
 D-E 15-VII-1973 1♂
 湿地への小径を横ぎる小川にて、日のある岩の上に静止しているのをみかけた。
16. オニヤンマ *Anotogaster sieboldii*
 D-E 19-VII-1971, 27-VII-1971, 12-X-1971
 湿地内に幼虫が沢山みられる。又、27-VII-1971には湿地内を流れる細流にて♀が単
 独で産卵するのを観察できた。
17. サラサヤンマ *Jagoria pryeri*
 D 21-V-1972 1♂
 小径沿いの小湿地の上をバトロールしている個体をみることができた。
18. ミルンヤンマ *Planaeschna milnei*
 D-E-F 21-VII-1971, 12-VIII-1971 2♀♀

木立ちにかこまれた小川付近で、薄暗い樹蔭の板に静止しているのをみかける。

19. クロシギヤンマ *Anax nigrofasciatus nigrofasciatus*

C 25-V-1971 1 ex

水源池近くの人工的な池で成虫を見、脱皮殻を得た。

20. カトリヤンマ *Gynacantha japonica*

D-E 12-VIII-1971, 25-VIII-1971, 12-X-1971
9-X-1973

夕方になると、小径にて夕昏飛翔する個体が多くみられる。

21. コヤマトンボ *Macromia amphigena amphigena*

A 25-V-1971 3♂♂, 27-VIII-1971

不動岩前の道路上を徘徊飛翔している。

22. ハネヒロエゾトンボ *Somatochlora clavata*

D-E 19-VII-1970 1♂, 27-X-1970 2♂♂,
12-X-1971 3♂♀

7月頃羽化し、その後しばらく水域をはなれ、林間の空き地や山道の木立ちに囲まれた陽当りの良い上空を摂食飛翔しているが、8月中旬頃より湿地内に戻ってきて、湿地上を縄張り飛翔するようになる。

23. オオエゾトンボ *Somatoch vividiaenea atrovirensis*

E 19-VII-1970 1♀, 3 ex 27-X-1970 2♂♂,
27-VIII-1971, 12-X-1971 5♂♂

7月頃羽化し、その後しばらく前種と同様に捕食活動を行ない、8月中旬には湿地に戻ってきて、生殖活動を行なう。金沢で観察された(武藤 1960)、幼虫期にハネヒロエゾトンボは丘陵・山脚の緩い小流、オオエゾトンボは樹蔭を伴う湿地にという棲み分けはここでははっきりとは確認できなかった(18-III-1971, 18-IV-1971の幼虫採集の結果より)。又、成虫では両者とも同一の湿地に飛来し、同じようなところで縄張り飛翔していた。

24. タカネトンボ *Somatochlora uchidai*

F 12-VIII-1971

D・E地点に点在する湿地にはみられず、木立ちに囲まれた小さな池の近くでみられることが多い。

25. シオカラトンボ *Orthetrum albistyrum speciosum*

E 12-VIII-1971, 27-VIII-1971

7・8月に湿地内で普通にみられる。

26. オオシオカラトンボ *Orthetrum triangulare melania*

E 19-VII-1971, 27-VIII-1971など

前種同様、7・8月に湿地内に多くみられる。

27. シオヤトンボ *Orthetrum japonicum japonicum*

E 25-V-1971

5・6月に湿地内で普通にみられる。

28. ハラビロトンボ *Lyriothemis pachygastra*

E 25-V-1971

湿地内でみられるが、数は多くない。

29. ショウジョウトンボ *Crocothemis servilia*

E 19-VII-1971, 12-VIII-1971 1♂

冬期に幼虫採集した際(18-III-1971, 18-IV-1971)、湿地ではショウジョウトンボとシオヤトンボのヤゴが極めて多かったが、水辺にみられる成虫の個体数はそう多くない。

30. コフキトンボ *Deielia phaon*

E 14-VII-1971 1♂, 27-VIII-1971

湿地内でみられるが、数はそう多くない。

31. ヨツボシトンボ *Libellula quadrimaculata asahinai*

A-E 25-V-1971 1♂, 他に1sp目撃

ここでは2個体確認しただけである。境野近くの池で1♂が灌木に静止しているのを目撃したこともある。

32. ハッチョウトンボ *Nannophya pygmaea*

D-E 25-V-1971~12-X-1971

湿地内にて5月中旬から8月下旬まで連続的に羽化がみられ、その個体数は極めて多い。未成熟な間は雄雄ともに湿地の周囲のやや乾燥した草地に静止しており、活発な活動はみられない。成熟すると♂は湿地内に戻り、縄張りをもつようになる。♀は周囲の草地に静止しており、交尾・産卵の際に水域に飛来する。また本種は極めて短命らしく(山本 1968)、梅雨などの際には湿地内の泥上に沢山の死骸がみられ(14-VI-1971)、又クモに捕食された

り、モウセンゴケに体をとられている個体も少なからずみられる。又、湿地内を流れる細流に棲息しているカワトンボに未成熟な♀が捕食されているのを観察したこともある(21-V-1972)。

33. ミヤマアカネ *Sympetrum pedemontanum elatum*

A 12-VII-1971, 27-VII-1971, 12-X-1971

不動岩前の荒地にて多くみられた。

34. ナツアカネ *Sympetrum darwinianum*

A-B-D-E 27-X-1970, 19-VII-1971, 21-VII-1971,

27-VII-1971, 12-X-1971

アキアカネと共に8~10月にはどこでも普遍的にみられる。

35. アキアカネ *Sympetrum frequens*

A-B-D-E 27-X-1970, 19-VII-1971, 21-VII-1971,

27-VII-1971, 12-X-1971

36. マユタテアカネ *Sympetrum eroticum eroticum*

A-B 27-X-1970, 19-VII-1971, 21-VII-1971,

27-VII-1971, 12-X-1971

本種も秋期に普通にみられるが、湿地の付近には個体数が少ないように思われる。

37. ヒメアカネ *Sympetrum parvulum*

D-E 27-X-1970 6♂1♀, 3-X-1970, 19-VII-1971

27-VII-1971, 19-X-1971

9・10月に湿地内はかなり多くみられる。本種は湿地内にて羽化し、湿地よりあまりはなれることなく成熟する。羽化はかなり長い期間にわたり行なわれるようで、3-X-1970に羽化している個体をみかけたことがある。

38. オオキトンボ *Sympetrum uniforme*

E 19-VII-1971 1♀

湿地内の草上に極めて美しい未成熟な個体が静止していた。おそらく他で発生したものがこへ飛んできたものと思われる。

39. コシアキトンボ *Pseudothemis zonata*

A-B-D 19-VII-1971

木立の間の狭い空間をやや高く旋回していた。かなり普通にみられる。

40. ウスバキトンボ *Pantala flavescens*

A-B-D 27-VIII-1971

かなり普通にみられるが、E地点の湿地内でみることは殆どなかった。

※ データーの記述について： A・B・Cなどの記号は採集地点を表わし、採集年月日のみを記してあるのは、目撃確認、頭数と性別を併記しているのは採集確認を表わす。

最後に： 主な調査地である湿地から丘一つ隔てたところに川下川が流れていますが、現在ここで大規模なダム工事が行なわれています。このダムが湿地という微妙な要素からなる環境にどのような影響を与えるのかはよくわかりませんが、湿地が無事であって欲しいと思っています。そしてこれからもハネビロエソトンボ、ハッチョウトンボ、ヒメアカネなどの湿地の住人が元気に飛び廻れる環境であれと願っています。

参 考 文 献

- 1969 石田昇三, 原色日本昆虫生態図鑑 II トンボ編
- 1965 尾花茂他, 大阪府のトンボ相 GRACILE No 1 3~11
- 1959 武藤 明, オオエソトンボの棲息地と生態について TOMBO Vol. 2
No 1/2 3~6
- 1960 武藤 明, ハネビロエソトンボの生態 TOMBO Vol. 3 No 1/2 8~15
- 1968 山本悠紀夫, ハッチョウトンボ成虫の生活史 TOMBO Vol. 11
No 3/4 18~23